

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2870700800 | | |
| 法人名 | 有限会社 日本健康管理システム | | |
| 事業所名 | グループホーム たんぽぽ | | |
| 所在地 | 兵庫県神戸市須磨区多井畑南町4-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年4月13日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年5月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2870700800-00&ServiceCd=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人ば・まる |
| 所在地 | 堺市堺区三宝町二丁131番地2 |
| 訪問調査日 | 令和5年4月27日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

奥須磨公園をはじめ自然豊かな住宅地の中にある。施設隣には小さな公園があり、春には満開の桜を見ることができ入居者様にも喜ばれている。近くにパン屋さんとコンビニがあり買い物をしたりパン屋さんのテラスで食べたりしている。施設の中は新しくきれいに整備され明るくアットホームな雰囲気で開催感が感じられる。施設の中は新しくきれいに整備され明るくアットホームな雰囲気で開催感が感じられる。食事は暖かいご飯とお味噌汁を提供しほとんどがスタッフの手づくりの料理を提供している。入居者様と一緒にことわざカルタや頭の体操を行い元気な声と笑い声が絶えない。看護師は常駐していないが、緊急時に主治医、看護師の協力が得られる医療連携体制が整っており安心して生活していただけるよう支援している。訪問歯科診療を入居者様に受けていただいております。日頃から口腔ケアに力を入れ誤嚥性肺炎などの疾病の予防に努めている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者職員のかかわり、接し方を大切にされており、対話や生活の中で、相互に居心地の良い環境整備に努められています。利用者にも職員にも、楽しい居場所、生活の場であり続けることに留意されており、ご家族等からも明るく接しやすい職員が多いと好感を得られています。施設内の委員会活動等を通じ、職員が自発的に、質の向上に繋がられる取組が展開されています。地域交流を意識されており、可能な利用者と共に、地域の清掃活動等にも継続的に参加され、地域との良好な関係性維持に繋がっています。利用者の生活能力維持を意識し、調理や生活動作等に積極的な参加を図り、生活へのメリハリや生きがいの確保にも配慮されています。提携医療機関との良好な関係性を大切にし、日常から、違和感や異常を気軽に相談できる体制の確保が行われており、速やかな医療連携の提供に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 評価 | 第 三 者 評 価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----------------------|---|---|--|-------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 各フロアに理念を掲げ、ゆっくり、一緒に、楽しく、の理念のもと地域の方との交流を増していくように入居者様と一緒に料理の下準備をしたり掃除をしたりケアの実践に努めている。 | 法人として生活に主眼を置いた理念が定められており、家庭的な雰囲気の中で生活して頂く事を大切にされています。居心地の良い施設環境、利用者との人間関係の形成に注力し、利用者・職員お互いが楽しく生活できる場の確保に努められています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、回覧等で地域の情報を共有している。運営推進会議、地域の催し、公園の清掃活動に、感染対策を出来る限り取りながら参加している。 | 毎月の地域の清掃活動にも、利用者と共に参加されており、地域の一員として自治会にも参加することで、地域との繋がりが保てるよう努められています。その他の自治会活動にも可能な範囲で利用者と共に参加しており、地域との情報交換や、顔の見える関係づくりに繋がられています。 | コロナ禍の制限下において、中断していた地域交流の再開拡充に期待します。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議及び地域の方の見学・来訪の時などにはじっくり時間を取り、相談を受けたりした。ワークキャンプは昨年は受け入れていないが、感染対策をして今年は受け入れたい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での意見や話し合いの内容は会議等で職員に伝達し周知している。玄関に議事録を置きいつでも閲覧できるようにしている。感染対策をしながら昨年度は4回開催できた。 | コロナ禍の制限下において、従前のような対面開催には制限がありますが、開催可能な場面では、民生委員の参加も得て、開催されています。制限緩和に伴い、家族や地域からの参加拡充が予定されています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市及び区の担当者、地域包括支援センターと連携を取り協力関係を築く努力をしている。特に保護課とは生活保護受給の利用者様が多いことから日常的に連絡を取り合っている。 | 支援にかかる内容に限らず、利用者の生活を支える上で必要な行政との連携が図られています。利用者個別課題について必要な行政支援が受けられるよう努められています。 | |

| 自己 | 第3 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については年間研修の必須項目とし全職員が受講し理解して業務に取り組み3か月に1回開催される身体拘束廃止委員会を行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。 | 3ヶ月に1回、拘束並びに虐待に関する適正化委員会が開催されています。委員会の内容は、回覧を含め、全職員が共有されています。職員には年間2回の研修が行われています。研修の際は、単なる講義ではなく、職員相互が事例を検討し、意見交換をする場をすることで、理解の促進と意識付けの維持に努められています。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 組織内の研修は職員全員が受講し理解した上で業務に当たっている。不適切なケアに当たる声掛けや時やスピーチロックを見かけた時はその都度注意し意識を高めるよう指導している。 | 3ヶ月に1回、拘束並びに虐待に関する適正化委員会が開催されています。委員会の内容は、回覧を含め、全職員が共有されています。職員には年間2回の研修が行われています。研修の際は、単なる講義ではなく、職員相互が事例を検討し、意見交換をする場をすることで、理解の促進と意識付けの維持に努められています。 | |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者や職員は組織の研修にて学んでいる。入居前や入居後においても必要に応じてご本人が制度を活用できるように支援し成年後見制度を利用されている入居者様から学びを得ている。 | 年1回職員研修が行われ、権利擁護の対する意識の継続と、振り返りに繋がられています。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前段階での、ご本人・家族との面談で十分に話し合い、質問や疑問に答えたり理解や納得を得ている。介護保険法の改定に伴い料金の変更についても説明を行い承諾いただいている。 | 契約時は必ず2名で対応するよう努められています。ト ラブルになりやすい料金にかかること等は、理解頂くまで丁寧に説明されています。利用者の生命に関わる緊急時対応や医療方針等についても、意向を踏まえた上で出来る事出来ない事を伝え、理解を得た上で、契約に至っています。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 受付にご意見箱を設置している。家族面談を行い意見を聞く機会を設け運営に反映させるよう務めている。運営推進会議に利用者様、ご家族様の参加を勧めて意見を伺いたい。 | 運営推進会議での意見や家族面談時の意見聴取を基に、運営に反映できるよう努められていましたが、コロナ禍の制限下において対面での聴取が困難な状況でした。制限緩和に伴い、聴取機会の再開拡充が予定されています。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議等で意見や提案を聞く機会を設けている。職員の意見を取り入れ他職員に周知している。定期的にストレスチェックを行い職員のメンタルの把握に努めている。 | 会議時に職員からの意見を表明する機会が設けられており、運営上の課題については職員全体で検討し、答えを探し出す方向で進められています。レクリエーション等について、職員の意見を基に拡充された事例が確認できました。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 月1回所長会議で代表者への報告する機会を設けており各自が前向きに働けるよう努めている。所長会議以外にも全般的に相談をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人外の研修に参加できていないが、ケアの質、力量不足が見られた場合、その都度指導を行い、知識、技術を身につけるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会になどの交流に参加できていないが、今年是他施設の状況を知り情報交換により刺激を受け、ケアの向上に活かすよう努めたい。 | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の習慣や嗜好などを把握し、入居時には御本人やご家族からのお話を時間をかけてじっくりと聞き、不安が解消されるような関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にはご家族の不安な気持ちを受け止め、疑問、要望など伺い、納得や理解が得られる治癒に努めている。ご家族の面会は制限しているが電話でご本人の状況を共有している。 | | |

| 自己 番号 | 第三 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------|---|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の面談でご本人やご家族には他のサービス利用も含めて説明し、ニーズがどこに求めを求めているのかを見極めるように努めている。段階的にニーズの見直しを行っている。 | | |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ゆっくり、一緒に、楽しくの理念に基づきアットホームな雰囲気でも過ごして頂けるようにお互いに支えあう関係を築き、利用者様を深く知るよう努力している。 | | |
| 19 | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月のお便りで近況報告を行っている。面会、受診時の同行電話などを支援しご家族と職員が共に利用者様を支える関係を大切にしている。 | | |
| 20 | (11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現状では難しいが馴染みの関係が途切れないように支援したい。 | コロナ禍の制限下において、従前のような対面交流や外出には困難な状況で、電話や手紙での交流継続を拡充されていました。制限緩和に伴い、可能な範囲からの再開拡充が予定されています。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 家事などの日課やレクでは利用者様同士が協力しながらかわりあえるよう支援している。相性にも配慮し上手くかわりあえるよう座席などにも気配りしている。 | | |
| 22 | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、必要に応じ、ご家族や退去先の関係者と連携を取りながら経過をフォローしたいが、現状ではご逝去された家族様との交流を続けている程度である。 | | |

| 自己 評価 | 第 三 者 評 価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----------------------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の希望に沿えるようよくお話を伺っている。場合によっては面談を行っている。意思疎通の難しい方については表情等によりくみ取るように努めている。 | 利用者からの傾聴に努め、さりげない会話の中から意向や思いを把握できるよう努められています。表情の変化にも留意され、意向に沿った支援となっているか検討されています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にご家族より、情報収集に努めているが、本人との会話の中で知るように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の関わりの中で情報等収集し、申し送りの中で職員が共有している。ご本人の力を活かせることはないかサービス担当者会議で意見交換している。 | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族の意向を踏まえ、ミーティングやカンファレンスで意見やアイデアを出し、モニタリングを行い主治医など関係者とも話し合い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。 | 職員が日々の支援で得た気づきや主治医等の意見も踏まえ、現状に即した介護計画の作成が出来るよう努められています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子に変化があれば、連絡ノートや申し送りで情報を共有し実践や介護計画の見直しに活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人・ご家族の状況や状況に応じ、求められることには可能な限り対応するよう努めている。 | | |

| 自己 者 第 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------|---|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の情報を把握し、行事に参加できるように努めている。近所のパン屋やコンビニでの買い物が入居者様の楽しみの一つとなっているが現状では外出していないため外出の機会を作り楽しみにしてもらいたい。 | / | |
| 30 (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にご本人及びご家族の望まれる主治医を決めている。専門医への受診や訪問診療の支援を行っている。眼科往診も行っている。 | | |
| 31 | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 24時間の医療連携体制を整えており、つねに連絡が取れる態勢を整えている。定期的な看護師の訪問があり、情報提供や相談を行っている。 | / | |
| 32 (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には介護サマリーで情報共有をし内科主治医から情報提供もなされる。病院関係者と情報交換し、退院のめどが付けば速やかに受け入れ態勢を整えている。 | | |
| 33 (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居後早い段階から重度化した場合や終末期の在り方について主治医を交え、ご家族との話し合いの場を設け意向に沿い方針を共有し、随時意思確認をしながら安心して納得がいくように支援している。 | 契約時に、終末期や医療に関する説明と同意が行われています。特に医療方針等については、丁寧に説明し、十分な理解を得た上で、出来る事出来ない事を意向を踏まえた上で話し合われています。 | / |
| 34 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は緊急時の対応マニュアル、法人内の研修で学び看護師や主治医にアドバイスを求めて応急手当の実践力を身につけるよう努めているが、すべての職員に対し十分に訓練が出来ているとは言えない。 | / | |

| 自己 評価 | 第 三 項 目 | 外部評価 | | |
|----------------------------------|---|---|---|-------------------|
| | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 | |
| 35 | (17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の昼間及び夜間の消防避難訓練を行っている他、災害時の避難訓練もおこなっている。運営推進会議を通して地域の方の参加を呼び掛けているが参加にまで至っていない。 | 夜間想定避難訓練も実施されています。地域と連携した避難訓練が計画されていましたが、コロナ禍の制限下において実施には至りませんでした。緊急持ち出し袋が用意されており、避難時に必要なものが持ち出せるよう準備されています。 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | (18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇や職業倫理の研修を通し、人格を尊重した支援を学ぶと共に日頃一人一人の自尊心を大切に、入浴、排泄に関してはプライバシーを損ねない支援に努めている。 | 接遇研修が行われています。利用者個々とのやりとりや何気ない会話が、結果として自尊心を傷つける結果となったり、羞恥心を生じさせる結果に繋がらないよう意識した支援の提供に努められています。 | |
| 37 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様がご自身の希望や思いを表しやすいよう、分かりやすい言葉かけや対応を行い自己決定しやすいよう心掛けている。 | | |
| 38 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様のペースを大切にしているが、入浴や受診や行事などがある時は希望に沿って支援できない時もある。 | | |
| 39 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時に整容を行っている。衣類はそれぞれ季節に合ったものをご本人、職員が選んで着ていただいている。お化粧をされる方もおられるためもっとおしゃれに関心を持って頂けるよう支援したい。 | | |
| 40 | (19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の出来ることに応じてもやしのひげ根取りや食器拭きテーブル拭きなど役割を持っていただけるよう支援している。温かいご飯とお味噌汁を提供している。 | 行事やイベントの一環として、利用者と一緒におやつ等を作るなど、作る楽しみと食べる楽しみを得られるよう努められています。季節食の提供も行われています。食事準備等は、利用者と共に行われ、利用者各自ができる事を役割分担して進められています。食事の際の雰囲気作りに配慮され、音楽の選曲や音量等にも配慮されています。 | |

| 自己 番号 | 第三 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食量・水分摂取量はチェック表にて把握している。一人ひとりの状態に合わせ食事形態を変えトロミ剤使用などを支援している。 | | |
| 42 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケア支援に加え、口腔内及び義歯の清掃がなされ週に一度の歯科往診があり口腔ケアに必要な物品整備に留意している。 | | |
| 43 | (20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表により、排泄パターンを読み取り失禁に至る前の誘導するタイミングの工夫など行い排泄の失敗を減らすよう努めている。 | 排泄自らの利用者が多いため、見守り観察支援が主となりますが、利用者の状況や様子によって、声かけ等により排泄自立が継続できるよう繋がられています。利用者への声かけ等は、羞恥心を招かないよう配慮して対応されています。 | |
| 44 | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便確認は行っている。一定のリズムで排便があるよう下剤の調整をしている。水分・食事摂取量も把握しており、水分量が少ない方は嗜好品を提供している。 | | |
| 45 | (21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 勤務体制で時間が限られている。午後から入浴となっているが午前中にも入浴できるよう対応している。しかし、すべての方の希望に添えているとは言えない。 | 週2回の予定入浴が基本ですが、利用者の状態や意向を踏まえ、予定変更やシャワー・清拭による代替等、柔軟な対応が行われています。脱衣時には、プライバシーに配慮した支援の提供に努められています。 | |
| 46 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりのペースを大切に、居室で過ごされている際は訪室をし安否確認をしている。室温調整や天気の良い日は外気浴など行っている。夜間不安で眠れない方は傾聴支援を行っている。 | | |

| 自己 番号 | 第三 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------|---|--|---|----------------------------|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医、薬剤師、看護師の協力を得ながら処方されている薬について理解するよう努めている。薬剤情報を各ユニットに置き常に確認できるようにしている。 | | | |
| 48 | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | お手伝いをして頂いた際はねぎらいの言葉を掛けそれぞれに応じた役割を支援している。一人ひとりにあった楽しみ事、気分転換が出来るよう支援している。 | | | |
| 49 | (22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望がある場合は買い物や散歩を行っていたが現状は中止している。受診時、家族様が希望されたら感染対策をしながら外食をされている。 | コロナ禍の制限下において、従前のような積極的な外出や、遠出は困難な状況であるため、施設近隣の公園や、敷地内で外気に触れる機会、歩ける機会の確保に努められています。制限緩和に伴い、再開拡充が予定されています。 | 制限緩和に伴い、個別外出支援の再開拡充に期待します。 | |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望される方は家族様との取り決めで金銭管理を行っている。 ホーム内の自動販売機で自由に購入できるように支援をしている。 | | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話がかかってきたときには取り次ぎお話をさせて頂いている。 年末に年賀状を家族様にだされる支援をしている。 | | | |
| 52 | (23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 行事ごとの装飾を行い季節感を楽しんで頂いている。利用者様の作品も飾り、楽しい空間であるよう工夫している。施設独特の臭いがしないよう換気に努めている。 | 温度・湿度・換気・衛生管理にも留意され、清潔ですぐしやすい共用空間を意識した、環境整備に鳥kまれ亭ます。趣味を活かした絵や制作物などが掲示され、利用者と共に季節感のある空間作りに努められています。 | | |

| 自己 番号 | 第三 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------|--|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者様同士の関係性を考慮し居心地の良い空間になるよう席など工夫している。 | | |
| 54 | (24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室が馴染みのある空間であるよう、入居時には馴染みの筆筒、衣類、仏壇を持って来て頂いている。ご家族の写真が飾られている方もおられる。 | 暮らしの空間の継続性に配慮し、馴染みのある家具や調度品、仏壇等を積極的に持ち込まれています。利用者個々で、思いのある写真や記念品等を設置されたりもしています。 | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室入り口にはわかりやすい表示を付けており、廊下の手すりを使用しながら自力歩行を支援している。一人ひとりの出来ること、分かることを把握しそれらを活かすよう努めている。 | | |